

主権者教育を推進する群馬県大学コンソーシアムに所属する学生チームが作成したインタビュー記事を紹介しします。今回は第3回、Cチームの記事紹介です！

Cチーム

主に高崎経済大学の学生でチームが組まれています。グループのテーマは「群馬県の観光魅力向上」に関する事で、県職員インタビューは群馬県庁の「観光魅力創出課」に、議員インタビューは亀山県議に行いました。



◎第3回は、Cチームの県職員インタビュー記事、そして県議会議員インタビューの記事を添付しますので、是非ご覧ください！

県内市町村の選挙情報

選挙の種類	告示日	投票日	関連QRコード
榛東村議会議員選挙	4月8日（火）	4月13日（日）	

群馬県の観光政策について

Cグループ

「インタビュー先」観光魅力創出課

「職員の方」藤田係長

「担当」高崎経済大学 河野ちとせ

高崎経済大学 大河原 拓弥

高崎経済大学 馬場 優人

高崎経済大学 高安 ひより



「群馬よいとこ観光条例」について、条例による成功例や観光客数について、効果がどの程度あったのか教えてください。

条例というのは、基本的に県職員から議会に発議することが多いのですが、この条例は議員が発議した条例です。この条例の狙いは、群馬県の観光振興の心持ちや役割を意識してもらうことです。

具体的な成功例では、富岡製糸場が挙げられます。観光客数では、平成26年では6,100万人でしたが、令和元年では6,600万人に増加しました。

Q 群馬県観光振興計画の基本戦略2について「魅力あるコンテンツの創出」における「温泉、自然、食、伝統文化等の既存の文化の観光コンテンツの磨き上げ」とは、具体的にどのような取組をしていますか。

今まで関連性がそれほど無かった要素というものを結び付けて資源化しています。例えば、ペットツーリズムがあります。以前は、ペットを連れて旅行や観光に来づかったのですが、ドッグランの整備などによってペットがいても楽しめるような環境を整備しました。

また、ユニバーサルツーリズムという観点から、障がいのある方や高齢者の方でも誰でも旅行や観光を楽しむことができるように環境の整備を進めています。

Q 群馬県観光振興計画の主要6に「新たな旅行スタイルの確立」とありますが、観光コンテンツをアラルト的に選んでもらうために群馬県の自然から引き出せるコンテンツは具体的に何があると考えますか。

まず、観光コンテンツを「アラルト的に選んでもらう」ことについてですが、これは、人それぞれの求めているものに合わせてさまざまな観光メニューを用意し、観光をより総合的に盛り立てるということです。この観光メニューを作成する際には、私たちの日常に溢れているものに手を加えることによって強化を行い、観光産業化することで、生活内のさまざまなものを観光資源とすることができそうです。

群馬県の自然における具体例の1つとしては、みなかみ町で行われている激流を生かしたラフティングが挙げられます。

Q 群馬県観光振興施策について、群馬県の観光DMPではどのようなデータを収集し、分析を行っていますか。また、収集したデータはどのように活用していますか。

観光DMP(データ・マネジメント・プラットフォーム)は、多様な観光情報を管理するプラットフォームのことです。

群馬県では、日本観光振興協会で構築された従来のDMPに加え、これを高度化した新たなDMPが今年度中に完成予定です。

従来のDMPでは国内旅行者の人流データやWEB・SNS分析などを行っていましたが、新たなDMPではインバウンド人流データや経済効果のデータ分析も可能になります。これらのデータは、観光地のPRや観光イベントの実施に役立てられ、県内市町村への情報提供を通じて、施策提案なども行っています。

Q 職務経歴とこれまでの業務で最も印象に残っている業務を教えてください。

入庁後は商政課という所属に配属されました。大規模小売店舗の出店審査を行い、交通渋滞等の周辺環境への悪影響が出ないように指導を行いました。その後は、2〜3年ごとに異なる部署に異動し、業務経験を積みました。

また、これまでの業務で最も印象に残っているのは、コロナ禍での「ワクチン接種センターの発足業務」です。大変なこともありましたが、円滑なワクチン接種体制の確立に貢献しました。

Q 群馬県職員になるために、最も必要だと思うことは何ですか。

部署異動も多く、さまざまなことができないといけない仕事であるため、柔軟性や対応力、周りの人と仕事において協力する力が必要になると思います。

Q 大学生が力を入れて取り組んだ方が良くことや、もったいなかった方が良くと思うアドバイスなどがあれば教えてください。

社会人になると、自由な時間が大学生に比べるととても減るので、今しかできないことをたくさんした方がいいと思います。例えば、海外に行くことやバイトをすることなどです。今しかできないことを大学生のうちに言い、経験を積むことが大事です。

Q 学生時代に、将来役立つと意識せずにやっていたことが結果的に社会人になって役立つことなどありますか。

本やネットなど様々な媒体から知識を収集することです。その知識が自分の礎になります。また、日本全体ではどうなのか、世界にとってはどうかと物事を俯瞰して考えてみることです。

そのほか、興味のあること以外にも取り組んだり、友達や年の離れた方と関わったり、地域のサークルに所属してみたりして、自分の世界を広げるといことも大切です。

【編集後記】インタビューを終えて

○グループのテーマである「群馬県の観光魅力向上」について、実際に観光魅力創出課で働く職員の方に直接お話を伺うことができ、学びをさらに深めることができました。また、行政における働き方に関しても、より一層理解を深めることができた貴重な機会となりました。(河野)

○今回のインタビューを通して、私自身が興味を

持っている観光と群馬県の有する豊富な自然の結びつけ方、そして具体的にどのような活用の仕方があるのかを知ることができ、これから先の群馬県の観光について考える際の参考にできる話を伺えて、勉強になりました。そのほかにも、観光産業化についての定義や、群馬県庁内の仕事についての深い話も聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。今回の経験を今後の学校生活や将来に生かしたいです。(大河原)

○群馬県の職員にインタビュー、また、お話をする機会をいただけたのがとても良い経験になりました。群馬県の魅力や、大学生のうちに自分自身がしておいた方が良く、より明確になりました。話を聞いていくうちに、自分の知らなかった群馬県の魅力や観光地を知ることができ、より一層群馬県のことを知りたいと感じました。(馬場)

○今回のインタビューは、群馬県の職員の方に直接お話を伺うという滅多にない機会でした。自分が知らない群馬県の観光や魅力向上に関する取り組みについて伺うことができ、新しい学びが非常に多かったです。群馬県の観光や魅力について改めて考える良い機会となりました。(高安)

(インタビューした日…令和六年八月七日)

〔インタビューした議員〕

亀山貴史 県議

【担当】 高崎経済大学 河野ちとせ

高崎経済大学 大河原拓弥

高崎経済大学 馬場優人



Q 何故、議員になろうと思いましたが？

家族が議員をしていたため、幼少期から身近な職業の一つとして捉えていました。東京の大学を卒業後はサラリーマンをしていましたが、地元に関わる仕事をしたいという想いや、友人から影響を受けたことで議員を志しました。

Q 県議会議員としてこれまで取り組んだことは何ですか？

桐生市の人口減少に伴う地域医療の衰退に目をつけ、同じ方向性を目指している山本知事とともに、群馬県内の病院に勤める医師数を増加

させることに成功しました。そのほかには、桐生市の町中を走るタクシーが減っていることから、地元のタクシー会社と協力して、日本版ライドシェアを始める手伝いをしました。

Q 県議会議員としてこれから取り組みたいことは何ですか？

これからの時代の課題は、人口減少だと考えています。その原因の一つは「子育て環境の整備が十分でない」ことだと考えており、現場の保育園の先生の声などを聞いて、より実感しました。そのため、今後は子育て環境の整備を重点的に行いたいと考えています。

Q 県議会議員のやりがいや苦労などはありますか？

やりがいは、人との出会いが多いところです。さまざまな人と交流することができ、自分自身の視野を広げることができています。苦労を挙げるとすれば、SNSとの向き合い方です。先の都知事選や兵庫県知事選でも話題になったように、現在選挙におけるSNSの使われ方というのは様々になってきているので、その扱い方には以前よりも時間と気力をたくさん使うようになりました。

Q 学生に伝えたいことはありますか？

社会人になると、自分のために使える時間が少なくなります。今を大切にして趣味や勉強などに有意義に時間を使ったり、やりたいことに

全力で取り組んだりしてほしいと思います。

Q 議会における所属や役割について教えてください。

桐生市から選出され、自民党に所属しています。主な議会での役割は、総務企画常任委員会の委員長などを務めています。また、群馬県アイソフッカー連盟の理事長も務めています。

Q 群馬県における観光政策や観光振興における課題はどのようなものがあると考えますか？

インバウンド向けの観光政策に加え、コロナ禍を経て新たに変化してきた旅行形態に対応できるような政策が必要だと考えています。それに伴い、観光地の交通網の整備などを行うことで「気軽に来れる」というイメージを持つってもらうことも重要だと考えています。

Q 群馬県の観光業をさらに盛り上げるためには今後どのような政策が必要になりますか？

群馬県の観光地を増やしていく必要があると考えています。例えばローカルスポットなど、これまであまり注目されてこなかった新たな観光地の確立やSNSなどによる宣伝を行うことが効果的だと考えています。

Q これから先の観光は多様化する観光客に応じた観光政策が必要だと考えますが、具体的にどのような政策を行うことで効果的な観光客増加を達成できると考えますか？

すぐにでも取り組まなければならないと感じ

ているのは、地方でのキャッシュレス化への対応です。インバウンドでの観光客や都心部からの観光客は現金を持ち歩いていないことも多いため、そのような方々に観光していただくためにも、キャッシュレス化への対応は急がなければならぬと感じています。さらに情報源のペーパーレス化が進んできているため、いろいろな情報をインターネットに上げていく手伝いもしていきたいと思っています。

Q 群馬県のイチオシの観光地を教えてください。

群馬県といえばやはり温泉です。そのほかにも季節によって様々な観光資源があるところも群馬県の魅力であると考えています。私の地元で行われる桐生八木節まつりもおすすめです。

Q 群馬県の観光資源として温泉が挙げられますが、この温泉を今後どのように活用して観光客の集客につなげたいですか？

温泉には古き良き伝統と気軽に行けるという二つの側面を持っています。伝統と気軽さを両立していくために、ユネスコの無形文化遺産登録に向けた活動や、温泉に入る際のタトゥーの規制緩和、裸の有無など幅広い人が温泉を楽しむようにすることが必要だと考えます。また、温泉を拠点に何泊かしてもらうような取り組みを行うことも観光客増加の手段の一つだと考えています。

Q 学生時代には、どのようなことに熱心に取り組んでいましたか？

幼少期からサッカーを続け、大学ではフットボールサークルを創設しました。また、就職活動を行う前に国会議事堂でインターンシップを行ったり、リゾートバイトをしたりするなど、学生時代にさまざまな経験を積みました。時間がある学生時代だからこそ、多くのことに挑戦してみましよう。

Q 休日はどのように過ごしていますか？また、県議会議員にお休みはありますか？

丸々一日休みの日はほとんどないため、いかに空いた時間で休みを取るかという意識になっています。また、現在ではSNSの発展等により、いつでも連絡ができる世の中になったため、オンとオフを意識して生活することが大切だと思っています。

Q 議会の閉会中は、主にどのような活動をされていますか？

主な活動は政務と公務です。具体的な活動は選挙の準備や講演会などが挙げられます。そのため、議会が閉会中でも週に二回は前橋に来ることが多いです。また、プライベートでは保育園の保護者会長でもあるので、保育園でのパーティーといった催し物の企画もしています。

Q 議会で、議員の方が行う質問などは、どのような着眼点から考えていますか？

議員の方たちがそれぞれの取り組みたい課題や掲げる公約をもとに、時代に合わせた質問や地元の人から悩みなどを聞いて、10項目程度の質問にしています。

【編集後記】インタビューを終えて

貴重なお話を伺うことができ、大変勉強になりました。私も学生時代のうちにさまざまな経験をしたと改めて考えました。（河野）

まず初めに感じたのは、亀山議員の地元への愛着でした。休みが少ない生活の中でも、地域がよりよくなっていくためには何が必要なのかを考え続けているということに感銘を受けました。インタビュー中であつたように、今を大切にして自分自身のやりたいことに全力で取り組んでいきたいと思っています。（大河原）

今回のインタビューを通して、私が一番驚いたことは、私たちとあまり変わらない学生生活を送っていたことです。私の中で、議員の人はち学生時代から選挙や政治について熱心に勉強されている方が多いと思っていましたが、亀山議員の学生時代を聞かせてもらってスキー場でアルバイトを行っていたり、大学でもサッカーを続けたりなど、私が最初に思っていた学生時代と違い、とても驚きました。（馬場）
（インタビューした日…令和六年十二月四日）